



東北商店株式会社
www.tohokushoten.com

被覆線・雑品
非鉄金属買取

貿易業

東北商店株式会社

□本社

大阪市住之江区新北島5-3-16

TEL:06-6683-8828

□南港事業所

TEL:06-6613-8838

□千葉支店

TEL:0436-76-7277

□名古屋支店

TEL:0567-94-5688

グループ会社

東北エント株式会社

兵庫県姫路市網干区浜田1585

TEL:079-271-5025

www.tohoku-ent.com

日刊メタルレポート

◆自動車生産台数

	12月	1月	2月
生産台数	84万8205台	83万7197台	95万2268台
前月比	+1.2%	-1.3%	+13.7%
昨年対比	+13.4%	+18.6%	+19.7%

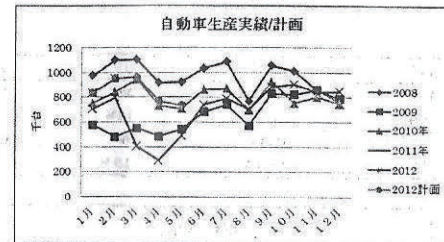
◆自動車販売台数

	1月	2月	3月
販売台数	26万3267台	33万3213台	49万7859台
前月比	+18.6%	+26.6%	+49.4%
昨年対比	+40.7%	+31.9%	+178.2%

◆生産計画台数

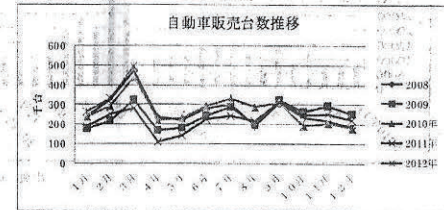
	3月	4月	5月
生産計画台数	96万3千台	77万6500台	73万3500台
前月比	+1.2%	-19.4%	-5.5%

自動車生産台数及び実績推移



出典 日本自動車工業会

自動車販売台数推移



出典 日本自動車販売協会連合会

◆【前月の経済指標】
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比一三・七％増の九五万二、二六八台であった。
◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数（軽除く）は前月比四九・四％増の四九万七、九五九台（前年比一七八・二％増）。
◆三月間の自動車生産計画は昨年対比一〇八・六％増の二四七万五千台、二面へ続く

のGDP目標をプラス八％からプラス七・五％に下方修正したことを嫌気し下落、八、四六八ドル（セツル）と約一二〇ドル下落しての前半締めとなった。後半はFRBバーナンキ議長が異例の超低金利を継続するとのコメントなど好材料もあつたが、中国PMI（製造業購買担当者景況感指数）が四八・一と節目となる五〇を五カ月連続で下回ったこと。バーナンキ議長がエネルギー価格高騰について懸念を示したことから三月三十一日現在、八、四八〇ドル（セツル）と前半締めから一〇ドル強下落、建値七五万円のスタートとなった。



橋本健一郎氏

自動車住宅に着 の各動向に勢いも！ ようやく本格回復の兆しか

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏リポート①

【概況】三月前半は前月に続き、ギリシャ政府と民間の債務交換会議（債権の割引）の進展に一喜一憂の中、ECBがギリシャ債務問題に関して五七兆円の資金供給を決定したこと、FRBが追加的緊急緩和（QE3）についてプラスの発言をするなど好材料もあつたが、上記債務交換会議の難航や中国全人代で十二年

電気銅輸入は前月比六六・二％減

背景に本格的回復基調への懐疑的見方

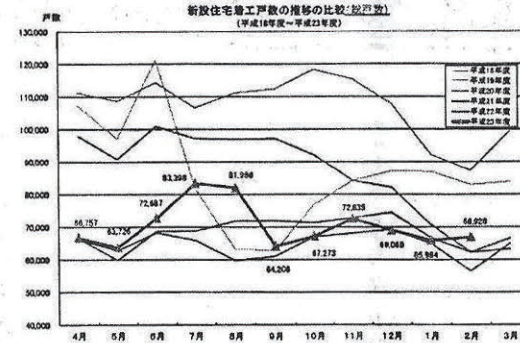
(一面より続く)

◆新設住宅着工戸数

国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)二・六％増(昨年比七・五％増)の六万六、九二八戸であった。

	12月	1月	2月
新設住宅着工数	6万9069戸	6万5984戸	6万6928戸
季節調整 前月比	-5%	+6%	+11.6%
昨年対比	-7.3%	-1.1%	+7.5%

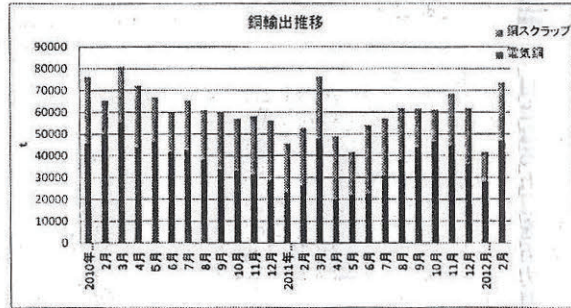
新設住宅着工件数推移



◆貿易関連指標

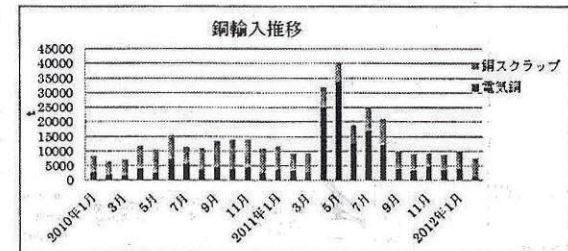
財務省貿易統計によると、輸出は前月比で電気銅が六七・六％増の四万七、〇三五t、スクラップが九六・二％増の二万六、四七〇t。

輸出	12月	1月	2月
電気銅	3万6046 t	2万8061 t	4万7035 t
前月比	-19.1%	-22.2%	+67.6%
スクラップ	2万5687 t	1万3488 t	2万6470 t
前月比	+9.8%	-47.5%	+96.2%



輸入	12月	1月	2月
電気銅	3646 t	3758 t	1272 t
前月比	-21.6%	+3.1%	-66.2%
スクラップ	5114 t	6286 t	6321 t
前月比	+9.6%	+22.9%	+0.6%

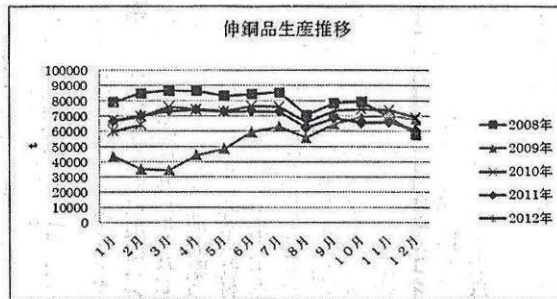
輸入推移



出典 財務省 貿易統計

【前月の国内指標】

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前月比七・一％増の六万四、一四〇t(昨年対比八・五％減)。



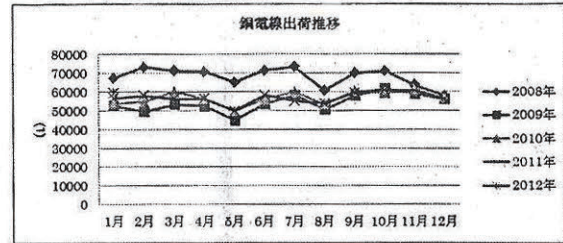
出典 日本伸銅協会

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前月比六・一％増の五万九、四〇〇tであった(昨年対比二・五％増)。(六面に続く)

国内銅需給

自動車、住宅以外は**不振**だが、
 今後は若干不足へ

(二面より続く)



出典 日本電線工業会

【見通し】
 自動車関連は好調、住宅関連も底入れが感じられたが全体としては悪化が進んだ月となった。

自動車生産は前年比一九・七%増の九五万二、二八万台と七カ月連続上昇。新年度に向けて今後も堅調に推移。

また国内自動車販売台数も四九万七、九五万台で前年比一七八・二%増と急上昇、また三、五月の自動車生産計画が二〇九%増と自動車関連は絶好調。

自動車関連が少ない伸銅品生産量は前月比七・二%増の六万四、一四〇t、昨年対比八・五%減と九カ月連続の前年割れ。

銅電線出荷量は、前月比六・一%増の五万九、四〇〇t、昨年対比二・五%増とようやく回復へ。特に自動車向けに助けられ形に。

新設住宅着工数は季節調整前月比一一・六%増の六万六、九二八戸、前年比は七・五%増とようやく本格回復の兆し。四月以降の復興需要に期待。

輸出に関しては、電気銅輸出が前月比六七・六%増の四万七、〇三五tと四カ月ぶりの大幅増。

また銅スクラップも九六・二%増の二万六、四七〇tとこちらも大幅増加した。背景には金融緩和による内需拡大期待の中国筋の買いが考えられる。

輸入は全体としては今だ本格的な回復基調

には懐疑的だとの見方から、電気銅は前月比六六・二%減の一、二七二tと大幅減少。銅需給に関しては、新年度に入り自動車関連の本格的な需要が発生、販売面で自動車は前年比一七八%増と大幅回復、また三、五月の三カ月間の生産計画は昨年対比二〇九%増の二四七万三、〇〇〇台。住宅着工数は七・五%増(前年比)と新年度入りに向けて需要増期待。ただその他の関連は引き続き悪化しており、伸銅品生産に関しては九カ月連続悪化の八・五%減(前年比)。緊急輸入がされていた電気銅は六六・二%減と大幅減少、ついに調整終了したと考えており、今後若干不足になるとの予測。

銅価格に関しては、欧州財務問題に関して一旦目処がついたことものの、米不動産、消費指標の結果がマチマチなことや、中国の経済の伸び悩み、など新規好材料難から上値は限られ八、六〇〇ドルあたり、ただ下値もあり米、中の金融緩和期待が下支えしLME価格で七、六〇〇〇八、六〇〇ドルで推移する見通し。銅建値に関しては六八、七六万円程度と予測している。

米追加緩和の意見後退

景気改善に伴いFOMC要旨

米連邦準備制度理事会(FRB)が三日公表した三月中旬開催の連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨によると、経済情勢次第で追加金融緩和が必要になると表明したメンバーが二人にとどまった。景気改善に伴い、FOMC内で追加緩和への姿勢が大きく後退していることが明らかになった。

バーナンキFRB議長は先に「選択肢は何も排除していない」と述べ、用意があることを強調しているが、市場の追加緩和期待は一段と低下しそうだ。

議事要旨によると、議長らFRBの理事や一部の地区連銀総裁で構成する投票メンバー一〇人のうち二人が「経済が勢いを失うか、もしくはインフレが中期目標の二%を下回り続ける可能性があれば、追加緩和策導入が必要になるかもしれない」と指摘した。

前回一月のFOMCでは二、三人のメンバーが、追加緩和が正当化されると主張。また、今回と同様二人のメンバーが経済次第で必要になるかもしれない、と述べていた。